

常任委員会報告

総務民生常任委員会

(2月25日開催)

調査事項

「乳幼児等の医療等に関する状況について」

乳幼児等の医療費等に対する取り組みは、保健福祉課で実施している予防事業及び住民課が実施している保険医療費助成の2つである。

医療費助成は北海道の医療費補助事業を拡大した乳幼児等医療費助成事業及びひとり親家庭等医療費事業である。乳幼児等助成は中学生までの保険診療にかかる全額を、ひとり親家庭等助成は母子、父子家庭等が対象で保険診療かかる医療費を助成している。

近隣自治体の状況は様々であり、奈井江町は本町と同様であるが、浦臼町は高校生まで全額助成となっている。

平成23年8月に支給対象を中学生まで拡大したことにより助成額が大幅に増加し、その後も増加傾向となっている。

経済文教常任委員会

(2月21日開催)

調査事項

「そっち岳スキー場の運営状況について」(現地調査)

平成25年度の営業期間は12月11日から3月21日まで。

リフトの乗車回数は、1月末現在で14万9958回。前年同期と比較し4.8パーセントの増。小中学校のスキー授業での利用は、1月末現在で1852人。

運営体制は、索道係員を常時5人、出札係員を常時1人配置。なお、出札係員は教育委員会に雇用しているが、他の業務については、体育協会に業務委託している。

安全対策としては、そっち岳スキー場索道安全管理規程、運転取扱細則等の各種規程を遵守するとともに、救命講習会及びリフト救助訓練を実施しており、利用者の安全確保に努めている。

空知教育実践表彰

おめでとう！

平成25年度の空知教育実践表彰者として本町から2団体選ばれました。空知教育実践表彰は、幼稚園教育、小学校教育、中学校教育、高校教育の中から、それぞれ1団体を選考し、当該年度の顕著な活動を評価し空知教育局長が表彰する内容です。

25年度は小学校教育の部で「新十津川小学校」が、社会教育の部で「とっぶ子どもゆめクラブ」が空知教育実践表彰の栄誉に浴しました。ひとつの町から2団体の表彰は稀であり、誇らしくもあり嬉しくもあります。

今回の議会広報表紙に「とっぶ子どもゆめクラブ」の活動の様子を掲載しましたので、その内容を紹介します。

「とっぶ子どもゆめクラブ」は平成14年に、学校や家庭ではできない様々な体験の機会を提供し、新たな発見や驚き、挑戦する心や達成感を与えようと町内に住む退職教員が集い発足しました。ゆめクラブの指導に当たる先生方

は、それぞれが持つ特技を勸案しつつ慎重な協議を重ね、子ども達の興味や関心を呼び起こすべくユニークなプログラムを立ち上げ、活動を展開しました。一部を紹介すると、ピンネシリ登山(親子での参加可)、丸太でチャレンジ(町民文化祭で展示)、竹とんぼづくり、家族雞づくり、昔の遊び体験、楽しい調理などに加え、「森をつくろう」では植樹実践を取り入れるなど、自然環境の重要性を理解できるような工夫も施されています。

今後は、指導者に元教員以外の人も招き入れ、町内の団体や企業など地域社会との連携も強化し、子ども達の生きる力の醸成に貢献していただくことでしょうか。

また、「とっぶ子どもゆめクラブ」は、世代間交流や自然遊びの場の工夫が評価され、安藤スポーツ・食文化振興財団から「平成25年度トム・ソーヤー奨励賞」も受賞しました。

(取材 青田)

編集後記

成長した我が子の姿に「この子の親でよかった」と胸を熱くする保護者の皆様に混じって、今年も新十津川小学校、新十津川中学校の卒業式に出席させていただきました。凜とした顔つきが誇りげな卒業生にエールを送ります。

さて、昨年、小学6年生まで接種年齢が引き下げられた子宮頸がんワクチンは、副反応を懸念し積極的勧奨をやめています。子宮頸がんは、接触によるウイルスの感染が原因。接触を避ければ、ワクチンを接種せずとも予防は可能ですから、今一度、大切な子ども達のからだを守るために、大人が出来ることを考えたい。

この子ども達を健やかに育てるために惜しむものは何もないと誓って、私達は親になつたのですから。(西内)

【議会広報特別委員会】

委員長 青田 良一
副委員長 山田 秀明
委員 笹木 正文
安中 経人
西内 陽美